白鳥雄介　Shiratori yusuke

1989 年生まれ。札幌市出身、東京都在住。
演劇ユニット「ストスパ」主宰。

2011 年より札幌の小劇場で出演を重ね、2016 年に初の脚本・演出作品『DUST BOX RUNNER』を上演。2017 年からは拠点を東京に移し、2018 年、演劇ユニット「Stokes/Park」（現「ストスパ」）を結成。以降、年 1 回ほどの公演で作・演出を担当。
2020 年には扉座・劇作塾受講し、横内謙介氏に劇作を習う。
2.5 次元舞台をはじめ商業系作品の脚本・演出も務めるとともに、2022 年より脚本家事務所「Pita（ピタ）」に所属し、アニメ脚本など活動の幅をひろげている。

《web サイト・SNS》

ストスパ　https://stokespark1.com
X　https://x.com/NOLINE_Swan
インスタグラム　https://www.instagram.com/shiratoriyusuke/

《活動歴》

2016 年　・**『DUST BOX RUNNER』**脚本・演出　於：演劇専用小劇場 BLOCH
2017 年　・**『それを聴いたとき、』**脚本　於：生活支援型文化施設コンカリーニョ
（谷川俊太郎『春に』を下敷きにした劇）
・**『W-W-W』**脚本・演出　於：演劇専用小劇場 BLOCH
（資本主義を学ぶゲーム教材『貿易ゲーム』を題材にした劇）
2019 年　・Stokes/Park（現ストスパ）1st **『BRIDGE × WORD』**脚本・演出　於：小劇場楽園
（言葉が脳から欠けていく父と、小説家になりたい娘を描いた劇）
・山口ちはるプロデュース vol.28 **『W PLAY』** 脚本・演出　於：シアター711
2020 年　・Stokes/Park 2nd **『フィルタリング』** 脚本・演出　於：OFF・OFF シアター
（異常気象が猛威を振るう未来の高校で、クラス分け会議とマッチングアプリで人を選ぶ教師たちを描いた劇）
2021 年　・**舞台『元号男子』**演出　於：大手町三井ホール
・**『笑ゥせぇるすまん THE STAGE』**脚本　於：品川プリンスホテル ステラボール
・ナポリの男たち ch 特別回 **『舞台・ナポリの男たち』** 脚本・演出
於：ヒューリックホール東京
・ベニバラ兎団 vol.27 **『STARGAZER』**脚本　於：六行会ホール
2022 年　・**舞台『アクダマドライブ』**脚本　於：品川プリンスホテル ステラボール
・**舞台『sequence』**脚本　於：六行会ホール
・Stokes/Park 3rd **『フゴッペ洞窟の翼をもつ人』**東京・札幌公演　脚本・演出
於：小劇場楽園、演劇専用小劇場 BLOCH
（北海道余市町に現存する続縄文遺跡の亡霊とヤングケアラーの青年を描いた劇）

2023 年　・アイヌ民話劇 ラポラポラ**『深々とフチへ、淵へ』** 脚本　於：小劇場 B1
・≒JOY☆FAIRY LIVE STAGE**『ミルモでポン！』**演出　於：品川プリンスホテル クラブ eX
・ストスパ 4th **『エゴイズムでつくる本当の弟』** 脚本・演出　於：小劇場 B1
（自身の結婚と育児を機に、血の繋がりのない弟と崩壊寸前の家族を描いた実話劇）

2024 年　・**『カリスマ de ステージ～おかえり！カリスマハウス～』**演出
於：品川プリンスホテル ステラボール
・**『超ハジケステージ☆ボボボーボ・ボーボボ』**演出　於：シアター1010
・朗読劇**『すっぴん 2024』**演出　於：すみだパークシアター倉

2025 年　・ストスパ 5th**『キロキロ』** 脚本・演出　於：「劇」小劇場
（35 歳を迎え、夢を覆う者、破れた者、それぞれの岐路と帰路を描いた劇）
・**舞台『池袋サンシャイン座長フェスティバル』** 脚本　於：サンシャイン劇場
・**『ビットワールド THE STAGE』**演出　於：サンシャイン劇場
・ストスパ 6th**『フゴッペ洞窟の翼をもつ人』** 東京再演　脚本・演出　於：HUNCH

《ご挨拶》

初めまして、白鳥雄介です。このような機会に恵まれ、とても嬉しく思っております。提出させて頂いた戯曲『キロキロ』により面白くなる可能性があるのなら、どんな意見も聞きたいです。忌憚なきご意見に、厳しくも温かい気持ちを乗せて頂けると幸いです。

このお話は、30 歳を過ぎ、結婚、妻の出産、育児を経験し、このまま脚本家として仕事を続けられるのか、家族を守れるのか、家族はもう増やせないんじゃないか、など漠然と込み上げてきた将来への不安から生まれたお話です。昨今の経済状況、演劇を取り巻く環境の変化も相まって日々辛くなる自分や仲間に手を差し伸べてみたくて考えた話でもあります。

ブラッシュアップに向けてヒントを得たい、意見を聞きたい点

① 「チビ」の扱い方、活かし方
→チビは物語の後半、藤永優佳のお腹の中にいる子どもということが判明する。（ここがきちっと伝わるべきだったと反省）
藤永が出産すべきかどうかの岐路に立つために必要な役割であり、チビにとってもこの世に生まれるかの岐路であるということで描いた役だが、よりこのキャラが物語に効果的に作用するにはどう描くべきだったか、意見を聞きたいです。

② ハーブの活かし方
→改めて読んでみると、仲間内の財布からお金を抜き取るという所業をしたにも関わらず、ストーリー回収があっさりしているように感じた。
もしお金を盗んでいたことがバレてしまうとすれば、もっと登場人物たちの心情を、熱くぶちまけるようなラストに向かうシーンが描けたら面白いのでは？ と漠然とイメージだけがあります。いわゆる「後半のたたみかけ」的な構造で、より登場人物たちの想いが吐露されていく展開に持っていくためには、ハーブを活かすのが良いのではないか、と思いつつ具体的な方法に辿り着けていません。

多くのご意見を頂き、道筋がついたら嬉しいです。よろしくお願い致します。

―― 白鳥雄介